

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名 グループホーム こすもすの家

日付 平成17年11月15日
特定非営利活動法人
評価機関名 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験9年
評価調査員 介護事業経験1年、家族の会相談員
経験3年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

外部評価の結果

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

このホームを訪ねて、まず私達を迎え、すり寄ってくれたのは猫ちゃん達、ゆったりとして人なつこい。そして安心して暮らしている様はこのホームでの暮らしを象徴するかのようだ。

野菜たっぷり、薄味の美味しい昼食を皆な揃ってワイワイ楽しく頂いた後に、誰からともなく歌が出る。あまりの上手さに思わず手拍子に力が入る。合いの手の入れ方も堂に入って、つい踊りたくなる程だ。「お酒が出んかなあ!」「そんなもん、出る訳が無いが、利用者同士、職員とのやりとり、そして少し仲良くなった私達とも遠慮のない会話が飛び跳ねる。ピリリと胡椒の利いた応酬。聞いていて唸るしかない話、さすが明治、大正の人だと思いつつ同時に、利用者は本当に心から開放されていると感じた。

看護師の資格を持つ管理者の母は、かつてここで開業医として地元の人達と深い繋がりを持っていたという大きな地盤の助けもあって、他のホームではあまり見られない地域への溶け込み方が見られる。さらに、医療福祉関連の資格を持つ管理者の息子夫妻が中心となって、併設している「デイサービスセンター」や「介護支援センター」の存在はとて大きい。お互いの交流もかなり頻繁で、数え切れない程のメリットがある。小規模多機能・地域密着の施設がここにある。

家族とのつながりやお互いの期待感も理想に近いと思った。地元の人が多い事も理由の一つかも知れないが、このホームの「楽しそうだな」という空気に魅了されているのではないかと。

特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした

今後グループホームのユニットが増え、また他の施設も増築の予定ということから、この地域周辺の「小規模多機能・地域密着型サービス」の拠点としてリーダーシップを発揮するホームに成長して頂きたい。こういった観点から次のような事を期待している。

認知症の人のそれぞれの状況に合わせて希望を聞いたり、意志を尊重する姿勢は十分伺えるが、今後さらにその幅やチャンスを広げたり、ほんの些細な意志の表出に対してもしっかりとした形で受け止め、表に出していく方法を工夫してみられてはいいかでしょうか。

家族との関係、地域との繋がりに関しては、他のホームと比較してかなり密接で良い雰囲気と思われるので、さらに一歩進めて「家族が中心となって、ホームの活動や機能に関わる家族会の立ち上げ」及び「地域への認知症ケアの啓発・人材育成への貢献」に向けて努力して欲しい。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	<p>グループホームとしてめざしているものは何か</p> <p>「誰かがこのホームの玄関にふらっと入って来られた時、職員の声ではなく、利用者さんの大きな声や笑い声が聞こえてくるようなホームにしたい。」</p> <p>管理者のこの言葉に「このグループホームの目指すもの」がある。そして、殆んど実現しているのではないかと思われる。「勿論、何もかも順調に来た訳ではありません。現在も問題はあります」という言葉の裏に、そして沢山の記録の中に、数々の苦勞の跡や試行錯誤の跡が伺われる。自分をこの住人の一人と想像しているような猫ちゃん達の「ゆったり我が道を行く」姿勢や雰囲気、このホームの全体に漂っているのも管理者を中心とした職員の努力の賜もの。猫ちゃん達の妖術のせいばかりではない。</p>		

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	<p>入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か</p> <p>管理者の母、さらに先人達が残してくれたこの広い空間を十二分に利用してすてきな場づくりをして欲しい。完成を楽しみにしている。特に第二ユニットの工事着工までに、他のホーム見学や現ホームの問題点についての検討を重ねて頂きたい。</p> <p>各居室も、共用生活空間も、利用者やその家族、そして器用な職員達の手作り作品があちこちに飾られており、ほのぼのとした気持ちになる。建物の外回りの空間も、おいしい空気をたっぷり楽しめるような情景が想像できる。開け放たれた玄関先から中学生の歓声や姿が伺えるのも嬉しい。また居室の床は弾力性のあるものにする等暮らしやすい工夫が見られる。</p>		

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	<p>一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か</p> <p>各居室入口に立派な表札がかけられている。個々の部屋と言う認識ではなく、「さんのおうち」にした感じです。こんな管理者の言葉や、その後感じた気配から、本当に「さんのおうちだなあ」と思っていました。しっかりプライバシーが守られるおうちがあり、楽しく集えるリビングやお隣のデイサービスにも居場所がある。この両方のバランスがとても良い。</p> <p>人と人とのコミュニケーションは50%以上は表情や動作によると言われている。表情を失ったかに思われる利用者に対しても、職員は目の動き、ほんの些細な動きからその人の人間としての力を見出し笑顔を引き出している。さすがだと感心もするし、「この人はここに居て幸せだなあ」と思う。</p> <p>ただ、「ああしたい、こうしたい」という意志や能力が沢山ある利用者に対しては、積極的に引き出してあげる工夫をしたり、働きかけをしてみてもどうか。新しい発見や驚き、喜びはしっかりと大きく受け止めて欲しい。本人にも周囲にもはっきりとした形で認識できるように。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	<p>サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か、</p> <p>「ホームの職員だけで頑張ろうとしないで、家族の方々にも出来る限り協力していただくんですよ。受診の時も都合がつけば、ご家族に付き添っていただくといい。私は管理者のこの方針に賛成だ。「ホームはすべてお任せ下さい」というやり方は一見頼もしく見えるかも知れないが家族が協力できることは積極的にして貰えばいいし、可能な家族は出来る限りホームの生活に関わった方がよいホームに育つと思う。何か問題が起きた時も、こういった雰囲気のホームの方がオープンな形で解決し易いだろう。気軽に家族や地域の人が入れるホームにしておくこと密室化しない。このことはサービスの質の向上をいやが上にも高めることになる。こういった視点からも、素晴らしいホームと確信する。</p> <p>さらに、記録の一つである「事故報告書」(内容的にはヒヤリ・ハット記録)について見ると、その時の状況・対応・原因・今後の対応が丁寧に検証されている。本当の事故に至る前のこういった姿勢が大きな問題発生を少なくしていると思う。地道な努力を積み重ねている。</p>		